

ブラジルの利下げについて

2012年7月13日

7月11日、ブラジル中央銀行は、同国の政策金利(SELIC(翌日物金利))を0.5%引き下げ、8.0%にすることを発表しました。これにより、ブラジルの政策金利は昨年8月に利下げに転じて以降8回、合計で4.5%の引き下げとなり、これまでの過去最低水準となりました。

《市場の予想通り、追加利下げ発表》

今回の政策金利引下げの背景には、景気回復の遅れとインフレ圧力の緩和が挙げられます。

ブラジルの国内景気は、欧州および中国の景気減速の悪影響から製造業および輸出関連企業の回復が遅れています。また、これまで堅調に推移してきた個人消費の伸びにも陰りが見えはじめており、景気を下支えするために政策金利引下げが必要と判断したと考えられます。また物価上昇率(インフレ率)が落ち着いていることも、政策金利引下げを後押しする材料となりました。

《今後の見通し》

●景気見通し

欧州債務問題は、EUなどによる対策、議論が進み始めており、懸念は徐々に和ぎつつあります。また、資源の主要輸出先である中国も本格的な景気対策に乗り出していることから、ブラジル景気は徐々に底入れが期待できる状況に近づいていくとみられます。今後は一連の金融緩和による個人消費の回復やレアル安による輸出の拡大が期待され、景気は緩やかに改善に向かうと考えています。

●政策金利見通し

現在の政策金利8.0%は過去最低水準にありますが、景気回復に力強さがみられない現況を踏まえると、ブラジル中銀がさらに追加利下げを行う余地が残されていると考えています。

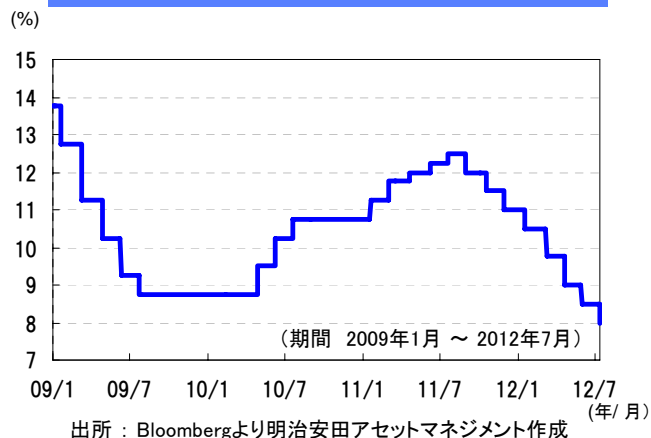
●為替

ブラジルレアルは、足元では金利先安観測や外部環境の悪化による投資家のリスク回避姿勢などから軟調に推移してきましたが、今後、世界景気が緩やかな回復基調となれば、他の新興国に比べても比較的高金利であることや資源国の優位性もあることなどから徐々に持ち直すと考えています。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。

●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。

《ブラジルの政策金利》



《ブラジルレアルの対円推移》

